

Pronto®を用いた血液透析患者の下肢血流評価

医療法人衆和会 長崎腎病院

○赤峰太一、林田征俊、矢野利幸、高木伴幸、澤瀬健次、原田孝司、船越 哲

【背景】

Masimo 社製 Pronto は、動脈血の拍動性信号と無拍動性信号の比率を算出した灌流指標(PI 値)が測定可能であり、下肢血流評価機器としての有用性が数々報告されている。

【目的】

Pronto で測定された PI 値により血液透析患者の下肢血流状態を評価する。

【対象・方法】

末梢動脈疾患(PAD)が疑われる糖尿病血液透析患者 22 名(男 15 名、女 7 名、平均年齢 70.9 歳、平均透析歴 5.2 年)に Pronto を用いて PI を測定し、皮膚再灌流圧(SRPP 値)との関連性を調査した。また、感度、特異度を算出し、下肢血流評価機器としての有用性を検討した。

【結果】

PI 値と SRPP 値において中等度の正の相関が認められた。(R=0.58)年齢との間に中等度の負の相関が認められた。(R=0.42)感度・特異度はそれぞれ、SRPP が 0.83・0.63、PI が 0.75・0.63 であり高い安定性が認められた。

【考察】

今回、糖尿病血液透析患者における下肢血流評価では、Pronto による PI は PAD の検出感度において SRPP より若干劣るものの機器の安定性としては遜色なく、下肢血流評価機器として有用である可能性が示唆された。特に機器操作が簡便で、迅速測定が可能な点は、血液透析患者の下肢血流検査に要する時間的拘束の軽減に有益であると思われる、今後、更なる活用法を検討していきたい。